

## ◎ 研究成果 ◎

# 水稲育苗ハウスを利用した甘ガキポット栽培

## ～ 施設の有効活用で商品性の高い果実生産 ～

### 1. はじめに

本県では、主穀作経営体の経営基盤の強化を図るため、園芸品目の導入による経営複合化を推進しています。果樹についてはリンゴやモモ等を導入する経営体が増え、新産地が形成されつつあります。今回は、新たに栽培管理が比較的容易な甘ガキを複合品目として選定し、①直売等での有利販売をめざして12月の贈答需要期に高品質な甘ガキを生産できること、②主穀作経営体が導入しやすいように既存の水稲育苗ハウスを有効活用して初期投資を抑え、早期に収益が確保できること、③労働負担を軽減し主穀作業との作業競合を抑えること、をねらいとして甘ガキのポット栽培に着目し、その栽培技術の開発に取り組みました。

### 2. 育苗ハウスへの搬入時期と収穫期、果実品質

カキは秋期の気温が高いと着色が遅れ、成熟も遅れます。そこで、育苗ハウスへの搬入時期と、収穫期及び果実品質との関係について調査しました。

その結果、収穫盛期は育苗ハウスへの搬入時期が早いほど遅くなることが明らかとなり（図1）、育苗ハウスに搬入することによって、果重の増加、糖度の向上といった果実の品質向上効果が認められました。しかし、「富有」では、搬入時期が早すぎると果皮色がやや淡くて糖度が低く、へたすきがやや多くなる傾向が認められました。

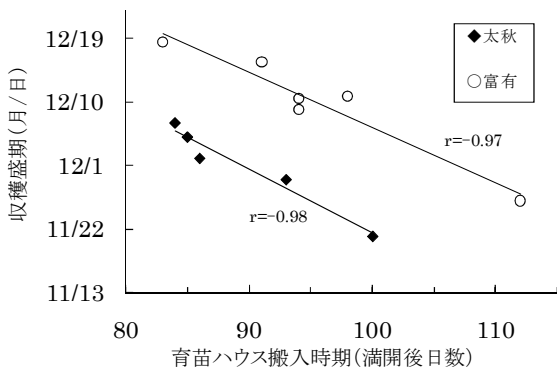


図1 育苗ハウス搬入時期（満開後日数）と収穫盛期（2006～2009） \*収穫盛期は累積収穫率が50%に達した日。

以上の結果から、収穫盛期の目標を「太秋」で12月1日以降、「富有」で12月10日以降とした場合、

育苗ハウスへの搬入時期は「太秋」で満開 84～89 日後頃、「富有」で満開 91～96 日後頃と考えられ、いずれも露地栽培よりも 17 日間成熟を抑制でき、「太秋」と「富有」の組み合わせにより 12 月上旬から中旬にかけて糖度が高くへたすきが少ない高品質な果実を生産できることが明らかとなりました。

### 3. 育苗ハウス搬入前の樹勢と収穫期、果実品質

育苗ハウスへの搬入時期が同じでも樹勢が弱い樹は収穫が早い傾向にありました。そこで、育苗ハウス搬入前の8月の新梢長及び葉色と収穫期との関係について調査したところ、「太秋」、「富有」いずれの品種も平均新梢長が長いほど、また葉色が濃いと収穫盛期は遅くなる傾向が認められました。一方、「太秋」では新梢長 35cm 以上、「富有」では 40cm 以上となると、糖度低下やへたすきの発生が多くなる傾向が認められました。

この結果から、収穫期を安定化させるには「太秋」では平均新梢長 30～35 cm、「富有」では平均新梢長 30～40 cm、葉色は両品種とも SPAD 値で 60 程度に樹勢を維持することが重要と判断されました。

### 4. おわりに

現地実証試験に協力を頂いた経営体では、平成 15 年から育苗ハウスでの甘ガキポット栽培に取り組んでいます。

当研究成果によって、贈答需要期に高品質な甘ガキの生産が可能になったことや、担当農林振興センター



ハウス内でのポット栽培カキ

及び市など関係機関の協力もあったことから規模拡大を図りました。この取り組みにより、農閑期となる冬期間の労力活用や経営のさらなる向上ならびに、他経営体への波及効果が期待されます。

（果樹研究センター 南條 雅信）